

【教科名】 美術科

(1) 目指すもの

- 全体目標：『美術を媒材とした人間形成』
- 中学目標：『表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。』
- 高校目標：『美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。』

(2) 授業の進め方： 年間指導計画

各ブロックの位置づけ、及び、発達段階、発達課題に応じて、次の通りの各学年の目標とねらいを置く。

中1. 想像力： 発想の豊かさ

中2. 技術力： 用具・素材などの基本的理解と取扱いの熟達

中3. 応用力： 個性の伸長

高1. 基礎的造形力： 基礎的造形理論の理解・基本的な造形的思考法の理解

高2. 総合的造形力： (推薦コース) 造形的思考法での応用力
： (受験コース) 造形的思考法での応用力・美術系受験基礎

高3. 総合的造形力： 造形的思考法の総合力・美術系受験基礎

※美術系進学については以下の点に留意し、その育成に努力する。

- ・自己の能力を発見させる指導。
- ・美術系大学及び学部学科の紹介や、受験情報の提供、進路相談。
- ・各学部学科や分野別のデッサンの指導。
- ・美術系研究所や予備校との情報交換。進路説明会などの企画。
- ・指定校推薦の対応

(3) 使用教材について： 課題・題材の設定

教科目標、年間指導計画の立案の基本姿勢を踏まえ、次の項目に留意しつつ題材を設定する。

- (ア) 各学年の発達段階を考慮した課題や題材の選択。
- (イ) 個々の生徒の個性・特性及び発達段階に対する柔軟な対応が可能な幅のある課題や題材の選択。
- (ウ) 媒材表現上の分野・素材の種類などの考慮。
- (エ) 美術の各分野の系統的配置の考慮。
- (オ) 課題や題材の学年の枠を越えた関連とフィードバックの考慮。
- (カ) 知覚表現の考察。
- (キ) 鑑賞と制作の関連の考慮。
- (ク) 美術系進路への対応の考慮。

(*美術科の使用教材とは本来は画材等を指すが、ここでは課題・題材設定と解釈した。)

【教科名】美術科 (授業内容や使用教材などは事情により変更する場合がある。)

最終到達目標			●全体目標：美術を媒材とした人間形成。 ※中学目標、及び、高校目標については、別項『(1) 目指すもの』を参照。		
ST	学年	コース	授業目標	授業ポイント	使用教材
第1ステージ	中学1年		□点描画『聖書の中の一場面』 □絵文字 □木版画『一版多色刷り』	○多色の点描 ○ポスターカラー、書体 ○版画表現の基礎	『美術1』(開隆堂) スケッチブック・ポスターカラー・版板・彫刻刀など
	中学2年		□グラデーションによる平面構成 □木彫『自然物をテーマに』 □鉛筆デッサン『体育館履き』	○明度、彩度、配色 ○立体表現の理解 ○鉛筆デッサン基礎	『美術2・3上』(開隆堂) イラストボード・ポスターカラー・桂材・彫刻刀など
第2ステージ	中学3年		□サンドブラスト □モダンテクニックによる自画像 □革コースター	○生活用品のデザイン ○現代的な発想の表現 ○生活用品の美術	『美術2・3下』(開隆堂) タンブラー・イラストボード・革コースターなど
	高校1年		□デッサン『明度による再現描写』 □絵画表現『自画像』 □デザイン①『ハイ・コントラスト』	○鉛筆でのリアルな描写 ○絵画表現と人体の造形 ○デザイン表現の基礎	『美術1』(日本文教出版) 鉛筆・アクリルガッシュ絵具セット・カルトンなど
第3ステージ	高校2年	理			
		文	□デザイン②『ポスター』 □総合表現①『木エディスプレイ』 □クロッキー・受験デッサン基礎	○デザイン表現の追求 ○平面、立体の総合表現 ○受験のデッサンの基礎	『美術2』(日本文教出版) 鉛筆・アクリルガッシュ絵具セット・カルトンなど
		推薦	□デザイン②『ポスター』 □総合表現①『木エディスプレイ』 □総合表現②『自由制作(卒制)』	○デザイン表現の追求 ○平面、立体の総合表現 ○卒業制作的な総合表現	『美術2』(日本文教出版) 鉛筆・アクリルガッシュ絵具セット・シナ合板など
	高校3年	理			
		文	☆文選 A『受験デッサン』(2単位) ☆文選 B『特講美術』(2単位) ☆共通 I『受験美術国語』(3単位)	○志望大学や学部学科を踏まえたデッサン中心の個別学習内容	デッサン及び描画用具一式

		推薦			
--	--	----	--	--	--

【学年】 中学1 年 【教科名】美術 【科目名】美術1 【単位数】2 時間

年間指導目標	表現及び鑑賞を通じて、想像活動の能力を伸ばすとともに、想像の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。
--------	--

学期	時期	授業課題	学習内容
1 学期	中間	点描画(絵画)	聖書の中の一場面をテーマに、本や、映画なども参考にしながら、各自が好きな聖書の場面を想像画で下描をし、点描画で色をつけていく。のびのびとした豊かな発想力と、たくさん色を使ってみる事により、こわがらずに色を使えるようになる事と、寒色・暖色・反対色・明度など色についての基本的な知識を身につける事を目標とする。スケッチブック・ポスターカラーを使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
2 学期	中間	絵文字(デザイン)	好きな漢字1文字を選んで、その漢字の一部分を絵に置き換えて表現する。絵を見ただけで何という漢字かが伝わるようなデザインを考える、ポスターカラーの使い方にも慣れる事と、ものの単純化・デザイン化について学習することを目標とする。 スケッチブック・ポスターカラーを使用。
	期末	木版画(下絵・彫り) 一版多色刷り	自分の尊敬する人の顔をテーマに、下書する。トレーシングペーパーを使用してベニア板に転写して、三角刀で線彫りする。スポーツ選手などの場合は、全身をいれてもよい。人物の表情や、体のつくりについての理解と、彫刻刀の使い方にも慣れる事を目標とする。ベニア倍版・トレーシングペーパー・スケッチブックを使用。
3 学期	学 年 末	木版画(刷り)	2学期に三角刀で線彫りした版木に、ポスターカラーで色をつけて、黒画用紙の上からバレンでこすり多色刷りをほどこしていく。色は、暗めのいろからだんだん明るい色で仕上げていく。すべての場所で合計3色ずつ色がついたら完成とする。 ベニア倍版・三角刀・バレン・ポスターカラーを使用。

【学年】 中学2 年 【教科名】美術 【科目名】 美術2 【単位数】 2 時間

年間指導目標	表現及び鑑賞を通じて、想像活動の能力を伸ばすとともに、想像の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。
--------	--

学期	時期	授業課題	学習内容
1 学期	中間	平面構成(デザイン)	B4サイズのイラストボードに、長方形をとり、その中心に3cm幅の縦線を2本引く。あとは、両端に向かって幅が3ミリずつ減っていくようにたくさん線を引いていきます。その作図をベースに2本の曲線を加えてデザインが決まります。縦線の間を、明るさや、色を変えたグラデーションで彩色していきます。最後にアクセントで2～3の幾何学模様・動植物のシルエットを加えて完成とします。配色や、色づくり、トーンについての基本的な知識を身につける事を目標とする。文化祭に展示予定。B4イラストボード・ポスターカラー・トレーシングペーパーを使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
2 学期	中間	木彫(彫刻)	動植物などの自然物をテーマに木彫作品を制作する。桂材の板を彫って、原型をどれだけ違う形に変えられるかを評価する。彫刻刀の扱いや、立体作品の表現方法について学習する。桂材・彫刻刀・糸のこぎり・鉛筆・滑り止めマットを使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
3 学期	学年末	鉛筆デッサン(絵画)	体育館シューズのデッサンを鉛筆で行う。明暗のとらえ方、立体感の出し方、トーンなどについて学習する。形が、正確に取れない部分があっても、力強く、描き込んでいるかを重視する。体育館シューズ・鉛筆4B・2B・HB・2H、B4イラストボード、練り消しを使用。

年間指導目標	表現及び鑑賞を通じて、想像活動の能力を伸ばすとともに、想像の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。
--------	--

学期	時期	授業課題	学習内容
1 学期	中間	サンドブラスト(工芸)	コップにシールをまいて、アートナイフで絵柄に沿ってくり抜く。くり抜いた部分に金属粉を吹き付け、ガラスを削りとっていく。削られた部分がすりガラス状になり、コップに絵を描いたよう出来上がりとなる。背景を色紙などで工夫して文化祭に展示する。また、コップが収まる箱も制作する。コップに合ったデザインや模様とはどのようなものか、生活用品のデザインについて考える課題である。コップ・シール・アートナイフ・色紙を使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
2 学期	中間	構想画(自画像) ～の～な私	絵の中に自分が登場し、いろいろな場所で、何かをしている自分を絵画で表現する。さまざまな技法を用いて、自分に合った表現を模索する課題でもある。壁に展示できる範囲であれば、半立体作品も可とする。インパクトや、完成度を重視する。中学3年間の総まとめ的な課題。(B3ケント紙・ポスターカラー・色鉛筆・クレヨン・マープリングインク・ダンボール色紙他、素材自由。
	期末	上に同じ	上に同じ
3 学期	学年末	皮コースター(工芸)	1学期に制作したコップとセットの課題で、コースターを制作する。薄口のケント紙を4層重ねて型紙を作り、皮コースターにプレス機でプレスして凹凸をつける。ケント紙は、アートナイフを使い、細かい部分もカットするよう努力する。最後に、皮染料で色付けをし、ニスを塗って完成する。シンプルで、独自性のあるデザインが求められる課題。 皮染料・B4薄口ケント紙・アートナイフ・カッターマット・プレス機・あつがみボンド使用。

年間 指導 目標	ものの見方の基本となる『明暗』の把握に関して、ファインアートとデザインの両面から学習し、基礎的な造形理論の理解と基本的な造形的思考法を理解する。また、専門的な美術の制作の喜びを体験し、表現と鑑賞の能力を高め、美術文化の発展に寄与する態度を養う。
----------------	--

学期	時期	使用教材・課題など	学習内容
1 学期		□鉛筆デッサン (明度による再現描写)	鉛筆による細密でリアルな立体や空間の表現を学ぶ。ねらいは、次の通り。 ①明度による空間・立体・質感の表現。 ②鉛筆の技術の修得。 ③集中力・持続力を養う。 鉛筆という最も単純な道具が、作者の観察や感性を引き出す可能性を高め、また、観察対象を明度に限定することで驚くほどリアルな表現にまで達することができる課題。集中力と持続力を養い、もの作りの原点の喜びを知り、制作の達成感を味わう。高1の最初の課題という点では、本校の美術のスタンスを理解する意味も含めた課題でもある。
2 学期		□絵画表現 (自画像)	アクリルガッシュ絵具とメデュームによる描法。また、人体の造形的把握方法を学ぶ。課題のねらいは、次の通り。 ①造形的見方を理解し、観察力を身につける。 ②絵具とメデュームの用法を理解し、描写力を身につける。 ③自分の表現の発見。 ④人体の構造的理解。 ⑤遠近感、質感、空間などの理解。 ⑥授業セッティングの訓練。 以上の観点から、単なる似顔絵などではない深い表現力を持った人物画の制作に取り組む。
3 学期	学 年 末	□デザイン (ハイコントラスト)	デザインの基礎的な思考方『抽象』と『単純化』の概念と、色面による表現技法を学ぶ。ねらいは次の通り。 ①『明度で区分した色面で表現をする』方法論の理解。 ②不透明な塗りの技法の修得。 ③集中力と持続力を養う。 ④高1の締めくくりに対応しい制作のレベルと密度。 また、この学習は高2の応用的な学習へつながる。

年間 指導 目標	高1で学んだ基礎的な造形理論と基本的な造形的思考法をベースに、総合的な表現へ応用展開し自己の表現を追求する。また、専門性を深めた学習を通して、より深い美術の制作や鑑賞の喜びを知り、美術文化の発展に寄与する態度を育てる。
----------------	---

学期	時期	使用教材・課題など	学習内容
1 学期		□デザイン② 『ポスター』	ポスター制作。テーマ・技法ともに自由。ねらいは次の通り。 ① ポスターの条件の理解。（視認性。理解のし易さ。独創性。展示環境への対応。） ② 柔軟な発想力。 ③ 明確なコンセプト。 ④構図、画面構成の理解。 ⑤レタリング（文字のデザイン）の理解。 ⑥色彩計画の理解。 ⑦着彩の技術力。 ⑧総合的表現力。 ※『平面』分野での集大成としての意味がある。
2 学期		□総合表現① 『木工ディスプレイ』	ディスプレイの制作。指定の木材以外は、テーマ、技法など自由。ねらいは次の通り。 ①柔軟な発想力。（企画力） ②明確なコンセプト。 ③作業工程の理解。 ④素材、用具、機材の取扱いを含む技術力。 ⑤表面の加工、着彩の技術力などを含むデザイン性。 ⑥立体の構造的（強度）の理解。 ⑦ニス塗装など表面処理の技術力。 ⑧総合的表現力。 ⑨プレゼンテーション。 さらに、『立体』も含む総合的集大成の意味がある。
3 学期	学 年 末	□総合表現② 『自由制作』	自由制作。テーマ、素材、技法など自由。高校美術のまとめとして『卒業制作』。ねらいは次の通り。 ①柔軟な発想力。 ②明確なコンセプト。 ③総合的技術力。 ④総合的表現力。 ⑤プレゼンテーション。

年間 指導 目標	基本は高校2年の推薦コースに同じ。 加えて、美術系受験の基礎体力を養う。
----------------	---

学期	時期	使用教材・課題など	学習内容
1 学期		□デザイン② 『ポスター』 □素描① ※1単位の領域	ポスター制作。テーマ・技法ともに自由。ねらいは推薦コースの内容と同じ。 素描①では、年間を通してクロッキーを継続的に実施。(幅広い意味での素描的内容も有り。)ねらいは次の通り。 ①対象の素早い把握力の養成。 ②対象のプロポーションや骨格の把握。 ③対象のムーブマンや重心の把握。 ④画面空間の認識力の向上。 ⑤デッサン力の強化。
2 学期		□総合表現① 『木エディスプレイ』 □素描② ※1単位の領域	ディスプレイ制作。指定の木材以外は、テーマ、技法など自由。ねらいは推薦コースと同じ。 素描②は、素描①での学習を継続し、レベルアップを目指す。
3 学期	学 年 末	□素描③ ※3単位のすべて	受験対応のデッサンの基礎的内容。ねらいは、次の通り。 ①デッサンの基本姿勢の理解。 ②デッサンの用具の理解。 ③ものの見方の理解。 ④形、色、面など、基礎的な造形思考の理解。

年間 指導 目標	美術系受験のためのデッサン力を徹底的に高める。また、最終的にはその上のステージにある所謂『感動のあるデッサン』に到達することを目標とする。[※『特講美術（文系選択 B）』と『受験美術国語（共通選択 I）』と共に履修することが望ましい。]
----------------	--

学期	時期	使用教材・課題など	学習内容
1 学期		□デッサン① (2単位部分)	<p>志望する学部学科と本人の希望を踏まえ、モチーフや想定課題などのデッサン課題設定をする。ねらいは、次の通り。</p> <p>①デッサンの基本の理解。 ②デッサンの用具の理解。 ③ものの見方の理解。 ④プロポーション、ヴァールール、空間、ムーブマン、マッサ、テクスチャー、均衡、質、比例、面、線など、様々な造形的思考の理解と修得。</p> <p>※選択者の状況により、デッサンの他、その他の実技課題も可能な範囲で対応を検討する。</p>
2 学期		□デッサン② (2単位部分)	<p>基本は 1 学期に同じ。個々の弱点を克服し、より実践的な内容へ。</p>

【学年】 高校 3 年 【教科名】 美術科 【科目名】 特講美術（文系選択 B） 【単位数】 2 時間

年間指導目標	美術系受験のためのデッサン力を徹底的に高める。また、最終的にはその上のステージにある所謂『感動のあるデッサン』に到達することを目標とする。[※『受験美術(文系選択 A)』と『受験デッサン(共通選択Ⅱ)』と共に履修することが望ましい。]
--------	---

学期	時期	使用教材・課題など	学習内容
1 学期		□デッサン①	<p>志望する学部学科と本人の希望を踏まえ、モチーフや想定課題などのデッサン課題設定をする。ねらいは、次の通り。</p> <p>①デッサンの基本の理解。 ②デッサンの用具の理解。 ③ものの見方の理解。 ④プロポーション、ヴァールール、空間、ムーブマン、マッサ、テクスチャー、均衡、質、比例、面、線など、様々な造形的思考の理解と修得。</p> <p>※選択者の状況により、デッサンの他、その他の実技課題も可能な範囲で対応を検討する。</p>
2 学期		□デッサン②	<p>基本は 1 学期に同じ。個々の弱点を克服し、より実践的な内容へ。</p>

年間 指導 目標	美術系受験のためのデッサン力を徹底的に高める。また、最終的にはその上のステージにある所謂『感動のあるデッサン』に到達することを目標とする。[※『受験美術(文系選択 A)』と『特講美術(文系選択 B)』と共に履修することが望ましい。]
----------------	--

学期	時期	使用教材・課題など	学習内容
1 学期		□デッサン①	<p>志望する学部学科と本人の希望を踏まえ、モチーフや想定課題などのデッサン課題設定をする。ねらいは、次の通り。</p> <p>①デッサンの基本の理解。 ②デッサンの用具の理解。 ③ものの見方の理解。 ④プロポーション、ヴァールール、空間、ムーブマン、マッサ、テクスチャー、均衡、質、比例、面、線など、様々な造形的思考の理解と修得。</p> <p>※選択者の状況により、デッサンの他、その他の実技課題も可能な範囲で対応を検討する。</p>
2 学期		□デッサン②	<p>基本は 1 学期に同じ。個々の弱点を克服し、より実践的な内容へ。</p>
			<p>※『共通選択 I』の『受験美術国語』は 3 単位の設定だが、「美術 2 単位」と『国語 1 単位』とのセットで開講する。国語は演習的な内容で国語科の教員が担当する。</p>